

【常陸太田市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等を踏まえ、常陸太田市では目指す学びの姿を「夢を育み健やかに生きるひとづくり『夢育』」とする。具体的には、児童生徒が1人1台端末を活用し、これまで取り組んできた情報教育やプログラミング教育等を土台としてさらなる充実を図るとともに、オンライン授業等を活用した夢に向かって実践的に取り組む力や、他者と協働して課題を解決する力、新たな価値を創造する力を身につけることを目指す。

2. GIGA第1期の総括

常陸太田市では、令和2年度にGIGAスクール構想の実現に向けて1人1台端末の整備を行った。またそれと共に、校内の通信ネットワークの整備を進めてきた。

授業ではICT支援員の助言の下活用も徐々に進んできており、児童生徒同士での意見交換や調べ学習の際にも活発に活用されているが、ネットワークの当面の推奨帯域を満たす学校はなく、今後さらにネットワークアセスメントを実施のうえ、十分な帯域確保の必要がある。一方で校外においては自宅に通信ネットワークが整備されていない児童生徒に対しモバイルルーターの貸し出しを行い、1人1台端末の家庭への持ち帰りを可能とした。

教職員のICTを活用した指導については、「GIGAスクール構想推進委員会」を設置し、大学教員を招聘して各校情報担当教諭を対象にしたICT活用研修会を実施して、指導力及び活用能力の向上に努めた。

教職員と児童生徒のつながりを深めることにこれまでも務めてきたが、より児童生徒に寄り添った支援ができないかと検討している。これについて、持ち帰りをしている1人1台端末を利用することで、児童生徒とのやりとりが増えていくことを期待している。また、不登校児童生徒の学びの機会の確保についても一助となることを期待している。

保守においては、端末やネットワークの不具合に即時対応できるように各学校から直接委託業者コールセンターへ連絡できる体制を整えた。しかしながら、メーカーによる修理に数カ月の時間を要し、予備機の不足が懸念される場面もあった。

3. 1人1台端末の利活用方策

故障率の低い端末の選定と保証面を考慮した更新を進める。また端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、1人1台端末の利活用方策として以下について検討していく。

- ・発達支援アプリを1人1台端末で活用し、心や体調の変化を早期発見するとともに、

「生徒と教師をつなぐツール」とする。

- ・教育データに基づき児童生徒の実態把握や実態に応じた指導の個別化に1人1台端末を活用する。
- ・希望する不登校児童生徒への支援や遠隔教育の実施に1人1台端末を活用する。
- ・教職員研修等において実践事例や先進的取組などを共有し、域外の取組についても意見交換が出来るよう取り組むことで、ICTを活用した個別最適な学び、共同的な学びを授業で行うことができるようになることを狙う。